

慶應義塾大学文学部 3つの方針

【人文社会学科・社会学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標(2)：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

資質・能力目標(3)：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標(4)：以上のような知識に加え、卒業論文コースの学生は、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探究し、その探究の過程と結果について適切に表現する力、卒業試験コースの学生は、社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識を身につけ、それを活用する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

卒業論文コース

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

卒業試験コース

1. 社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識および活用能力を身につけている。
2. 与えられたテーマに関して、社会学、社会心理学、文化人類学の知識をもとに、論理的に表現できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科社会学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディ

プロマ・ポリシー)」に掲げる資質・能力目標を養成するために、必修科目と選択科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、社会学、社会心理学、文化人類学の概論科目に加え、より専門的な各論科目や多様な特殊科目を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学説および理論を学べる科目に加え、主要な社会調査法を身につける科目を置き、調査やフィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、学生一人ひとりの問題意識や関心を対話的に支援し、学修した知識を自ら応用し、新しい知見を見出すことができる多彩な演習科目を設置する。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目で身につけた学習の基礎的技能、言語運用能力をふまえ、必修科目において、社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な知識を着実に身につけるための科目を置き、より専門的な学習を行うための基盤を形成する。

資質・能力目標(2)：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

→ 必修科目での学修成果をふまえ、選択必修科目、選択科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する社会学、社会心理学、文化人類学からの学問的成果を修得するための幅広い科目を置き、3つの学問に対する個別的学习のみならず、2つ以上の学問分野の融合的な理解を導き、社会問題への多角的な応用力を養う。

資質・能力目標(3)：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

→ 必修科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する様々な資料を収集・整理・分析・解釈するための妥当で信頼できる方法および技法を学び、演習できる科目を置き、自ら立てた問いを実証的に探求し、プレゼンテーションする機会を設ける。

資質・能力目標(4)：以上のような知識に加え、卒業論文コースの学生は、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力、卒業試験コースの学生は、社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識を身につけ、それを活用する力。

→ 卒業論文コースとして、3年次と4年次においては、より限定的な領域における具体的な問題をめぐり、対話的、実習的、実践的に学習できる演習科目を置き、卒業論文の作成を支援していく。また、卒業試験コースの学生に対しては、4年次において、特定の専門領域を自覚的に選び、それを自らの専門として主張できるよう、一定基準以上の知識および活用能力を担保できる履修指導を行っていく。

入学者の受入れに関する方針（アドミSSIONポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。